

禘 祭 考

内 野 台 嶺

一、禘の意義

春秋經、文公二年八月の條に、

八月丁卯、大_ニ事_一于大廟。

とあり、公羊傳は之を説明して、

大事者何。大禘也。大禘者何。合祭也。其合祭祭何。毀廟之主、陳_ニ于太祖_一。未毀廟之主、皆升、合_ニ食_一于太祖。五年而再殷祭。

と云つてゐる。即ち公羊傳の説明するところに據れば、禘とは、文字の示す通り、祖先の大合祭であつて、毀廟の主は言ふに及ばず、未毀廟の主も亦同時に、太祖の廟に於て合祭せらるゝ祖先の大祭である。而して何休は之に註して、此の時太祖の主は、依然として自廟室中に東嚮し、毀廟未毀廟の主は、太祖の主前、南北二列に陳列され、昭主は北に在つて南嚮し、穆主は南に在つて北嚮すると謂ふ。穀梁傳の説くところ、范甯の註するところも、亦此の公羊の傳文、並に何休の註文と大同小異である。

ところで春秋經文の「大事」が、何故「禘」祭に當るのかといふ疑問に對しては、公羊傳徐彥疏に、凡そ二つの理由を擧げて説明してゐる。即ち一つの理由は、春秋宣公八年夏六月の經文に、「辛巳、有_レ事_ニ于大廟_一。」とあり、單に「有_レ事」と云ひて、「大事」と云はず。今此處に「大事」と云ふからには、大祭即ち「禘」でなければならぬといふのであり、

(左傳は之に對して何等説明なく、杜預は註して、此の「大事」は禘祭だと云つてゐる。) 今一つの理由は、春秋僖公八年の經文に、「秋七月禘於大廟。」とあり、爾後三年一禘といふことで計算すれば、僖公の十一年・十四年・十七年・二十年・二十三年・二十六年・二十九年・三十二年と禘祭が行はれ、その次の禘祭は丁度文公二年に相當する(僖公は三十三年に終るを以て)からだといふのである。

解云、宣八年夏六月辛巳、有_レ事_二于大廟。彼是時祭、不_レ言_レ大。則知、此言_レ大者、是大祭明矣。

解云、春秋說文云、三年一禘、五年一禘。爾雅云、禘大祭也。孫氏云、禘、五年大祭也。然則三年一禘、五年一禘、禮如_レ然也。案僖八年秋七月、禘於大廟。從此以後、三年一禘數、則十一年禘、十四年禘、十七年禘、二十年禘、二十三年禘、二十六年禘、二十九年禘、三十二年禘、文二年禘也。若作_二五年一禘_一數、則從_二僖公八年禘_一、十三年禘、十八年禘、二十三年禘、二十八年禘、三十三禘、文五年禘。則文二年、非_二禘年_一、正當_レ合_レ禘。故知_二此年大事爲_レ禘矣。

而して後漢の鄭玄は、周禮春官大宗伯の「以_二肆・獻・裸_一享_二先王_一、以_二饋食_一享_二先王_一。」に註して、

禘言_二肆・獻・裸_一、祫言_二饋食_一者、著_二有_二黍稷_一互相備_上也。魯禮、三年喪畢、而禘於太祖。明年春、禘於群廟。自_レ爾以後、五年而再殷祭、一禘一禘。

と云つてゐるが、(禮記王制鄭註亦此の事を言ふ)これ勿論禮識の文に據つたに相違ないものゝ、猶且上掲公羊の説と自ら其の揆を一にするものであることを知る。さればこそ賈公彥は、此の鄭註に疏して次の如くに論じてゐる。

云_二魯禮_一、三年喪畢而禘於太祖者、此以_二周衰禮廢_一、無_二文可_レ明_一。春秋左氏傳云、周禮盡在_レ魯。即以_二春秋_一爲_二魯禮_一。今言_二魯禮_一者、指_二春秋_一而言也。春秋、三年喪畢而禘於太祖、謂_二若_二文公二年秋八月、大_二事于大廟_一、躋_二僖公_上。僖、三十三年(十一月)薨。至_二文二年秋八月_一、於禮雖_レ少_二四月_一、猶是三年喪畢而爲_二禘祭_一也。是魯禮三年喪畢而禘於太祖。太祖、周公廟。謂_二於_二周公廟中_一、而爲_二禘祭_上也。云_二明年春禘_一於群廟者、此明年春禘。雖_レ無_二正文_一、約_二僖公_一。

案僖公八年、及宣八年、皆有禘文、則知僖公・宣公三年春、有禘可知。何者、以文公二年祫、則知僖公・宣公

二年亦有_レ禋。僖公・宣公二年既爲_レ禋，則明年是三年春禋，四年五年六年秋禋。是三年禋，更加_二七年八年_一，添_レ前爲_二五年禋_一。故僖公・宣公八年皆有_レ禋。是明年春禋明矣。故云_二明年春禋_一於群廟。廟也。

云「自爾以後五年而再殷祭者、公羊傳文。殷、大也。除明年春、從四年己後、四年五年六年七年八年、八年之中四年五年六年、爲三年禘、七年八年、添前爲五年禘。是五年再殷祭也。云「一禘一祫」者、是禮識文。謂五年之中、爲二禘一祫也。」（禮記王制孔穎達疏に、亦此の事を論じて詳かなれども、大凡大同小異なれば、今煩を避けて引用することを省く。）

「禘」祭の義以上の如しとせば、廟祭五年に一禘の「禘」と、大凡如何なる相違點があるか。今左に少しく之が攻究を

進めて見よう。尤も「禘」には、天祭禘郊の「禘」あり、又王者その始祖を配祭するの大「禘」あり、更に又宗廟時祭嘗禘の「禘」ありて、一概に之を斷することは困難であるけれども、凡そ夫等の「禘」に就ては、既に發表した「禘祭考」の方に譲り、今は只五年に一禘の廟祭に限つて此の事を論究するつもりである。

緒「衿」と「褌」との相違については、既に三年一衿、五年一褌とあれば、そこに自然其の相違點が明かにされてゐるが如くであるけれども、尙その詳細に關しては、禮記王制「天子黼黻、衿褌、衿裳、衿烝。」の孔穎達疏を見る必要がある。

鄭康成、禘及四時祭所以異者、此禘謂祭於始祖之廟。毀廟之主、及未毀廟之主、皆在始祖廟中。始祖之主、於西方、東面。始祖之子爲昭、北方南面。始祖之孫爲穆、南方北面。自此以下皆然。從西爲上。

禘則大王・王季以上遷主、祭於后稷之廟。其坐位乃與禴相似。其文武以下遷主、若穆之遷主、祭於文王之廟。文

王東面、穆主皆北面。無昭主。若昭之遷主、祭於武王之廟。武王東面、其昭主皆南面。無穆主。又祭親廟四。其四時之祭、惟后稷文武及親四廟也。（禮記王制）
（孔穎達疏）

即ち「禘」祭に於ては、毀廟・未毀廟を問はず、全部の木主を始祖（太祖）廟に集めて合祭するのであるが、「禘」祭に於ては、毀廟の木主のみが始祖廟に合祭せられ、高祖に至るまでの未毀の四親廟は、各自その廟に於て祭られる。今之を周の例で云ふならば、王季以上の毀廟の主は、總べて始祖后稷の廟に合祭せられ、文王武王以下の毀廟の主は、穆主ならば文王の廟に、昭主ならば武王の廟に合祭せられることになる。これ文王は穆主に當り、武王は昭主に當るからで、而も周に於ては、文武の二王は、特に之を尊崇して、敢て永久に毀廟しないところから、斯の如く特別扱ひをされるのである。而して父・祖・曾祖・高祖の四親廟が、各自の廟に於て祭られることは云ふまでもないと、斯ういふのである。

宋の邢昺も亦論語八佾篇禘灌の疏に於て、「禘者合也。文二年公羊傳曰、大禘者何。合祭也。其合祭奈何。毀廟之主、陳于太祖、未毀廟之主、皆升、合食於太祖是也。（中略）三年一禘、五年一禘。禘所以異於禘者、毀廟之主、陳於太祖、與禘同。未毀廟之主、則各就其廟而祭也。」と説いてゐるが、是れ全く孔疏と意見を同じうするものである。然るに梁の皇侃は、論語義疏の中に於て、禘禮亦、毀廟未毀廟の主、何れも皆太祖の廟に升り、以て合祭を受けるものとなし、「禘禮、必以毀廟之主、陳在太祖廟。未毀廟之主、亦升於太祖廟。序詒昭穆、而後共合食堂上。」と云つてゐるが、併しこれでは禘祭の場合と一向變るところがなく、苟も禘・禘兩立させる以上、皇侃の説は不通とならざるを得ない。

三、禘大禘小説

以上説くところにより、吾人は既に禘と禘との間に若干の相違點あることを知つた。然らば禘と禘とは、廟祭としてその何れが大、何れが小なのであらうか。周禮春官大宗伯に據れば、

以_二肆・獻・裸_一享_二先王_一、以_二饋食_一享_二先王_一、以_二禴夏享_一先王、以_二嘗秋享_一先王、以_二烝冬享_一先王。とあり、鄭玄が此の「肆・獻・裸」を以て禘祭なりとし、饋食を以て禘祭なりとしたことは、前既に説明したところである。而して此の六享の配列から見ても、「肆・獻・裸」が「饋食」より大であるべきは云ふまでもなく、従つて賈公彦は之に疏して、

此經若細而言之、即有_二六禮_一。總而言之、則亦有_二三等之差_一。肆・獻・裸、是禘之大祭。以_二饋食_一、是禘之次祭、以_二春享_一以下、是時祭之小祭。云云。

とさへ言つてゐる。果して「肆・獻・裸」が禘であり、「饋食」が禘であるならば、此の大小論は恐らく當つてゐるであらう。併し乍ら、此の「肆・獻・裸」を禘祭に當て、又「饋食」を禘祭に當てゐることに就いては、別にこれといふ正文の證據があるわけではない。そのことに就ては、何れ復後段に於て觸れるところがあるであらう。ところが茲に禘大禘小とも見るべき一二遺されたる文獻が存する。その一つは實に禮記曾子問に示されたる左の記事である。

禘祭於祖、則祝迎_二四廟之主_一。主出_レ廟入_レ廟、必蹕。

これ禘祭には、未毀廟・四親廟の主をも始祖廟に移すことを示すものであつて、これ頃て禮記王制の鄭注孔疏説（前出）を裏書するものである。否寧ろ鄭注孔疏説は、實は此の曾子問の記事などを其の根據の一つとなしてゐるのであつて、「禘」の大合祭であることを知る上に有力なる證據ではある。但それかと云つて、單にこれだけの記事では、未だ以て「禘」と比較して、禘は大也と速斷し難い點も存する。

然るにそれにも増して有力なる證據ともなるべき文獻は、春秋や左傳などに著はれたる左の記事であらう。今其の有力なる證據ともなるべき文獻を列舉して見ると、春秋經文に於て五ヶ條、

閔公二年「夏五月乙酉、吉禘于莊公。」

僖公八年「秋七月、禘_ニ于大廟。」

文公二年秋「八月丁卯、大_ニ事于大廟。」

宣公八年夏六月「辛巳、有_レ事_ニ于大廟。」

昭公十五年「二月癸酉、有_レ事_ニ于武宮。」
(此の條左傳では、春將_レ禘_ニ於武公と書してゐる)

とあり、更に左傳に於て二ヶ條

昭公二十五年「將_レ禘_ニ於襄公。」

定公八年「冬十月辛卯、禘_ニ于僖公。」

とある。今之を通覽すると、「禘」のことは且く之を描き、凡そ「大事」と「有_レ事」とに分別記録されて居ることを見る。而して公羊の説に據れば、「大事」とあるのは、「禘」の大合祭だといふ。若し此の事を是認するならば、「有_レ事」は禘よりも小なる祭となり、他の用例から推して、當然「禘」の祭とならなければならぬ。此の事は、僖公八年の場合と、宣公八年の場合とを對照すれば、一見直ちに了解される事柄であり、且つ「禘」祭するに方つては、未毀の廟は其の儘各自の廟に於て祭られることも分るのであるが、但疑問とすべきは、「大事」と「有_レ事」とが、果して公羊の言ふ如く、「禘」と「禘」に分説されたものかどうか、その點未だ他に明確なる證據はないのであつて、杜預が文公二年の「大事」に對して、「大事とは禘也」と注したのも、一概に之を斥け去ることは出来ないのである。

斯くして若干の難點は存しつゝも、兎も角「禘大禘小」の説は一應成立するのである。然るに之とは正反對に、「禘大禘小」の説も、一方に存することを忘れてはならない。

四、禘大禘小説

鄭玄が公羊其の他に基づいて、禘大禘小説を唱へたことは前既に詳説した通りである。然るに禮記王制孔疏の引説するところに據ると、常に鄭説に反對するを以て著名なる王肅は、此の點に關しても、矢張り反對の立場に立つて、禘大

禘小説を唱へてゐるものゝ如くである。今之を引用すると、

若^三王肅・張融・孔晁、皆以^レ禘爲^レ大、禘爲^レ小。故王肅論、引^下賈逵說、吉^三禘於莊公、禘者遞也、審^レ遞昭穆、遷主遞位、孫居^レ王父之處^上。又引^下禘於大廟、逸禮、其昭尸穆尸、其祝辭總稱^三孝子孝孫、則是父子並列^上。逸禮又云、皆升合^三於其祖^上。所以^レ劉歆・賈逵・鄭衆・馬融等、皆以爲^レ然。(禮記王制孔疏)

といふのであるが、この引用は稍々明瞭を闕く憾みがないわけでもない。併し臆氣乍ら、「禘」に於ては廢主何れも皆合祭せられ、「禘」に於ては必ずしもさうでない。従つて禘は大にして禘は小だとする意見が、其の間に看取されることは看取される。鄭司農が、周禮春官司尊彝の

春祠夏禴、裸用^三雞彝鳥彝、皆有^レ舟。……秋嘗冬烝、裸用^三單彝黃彝、皆有^レ舟。……凡四時之間祀、追享朝享、裸用^三虎彝雉彝、皆有^レ舟。……

に注して、「追享・朝享、謂^三禘・禘也。在^三四時之間、故曰^三間祀^上。」と云つたところから察すると、鄭司農も亦どうやら「禘大禘小」と見たらしい。けれども此の追享・朝享が果して禘・禘に當るかどうかは頗る疑問であり、鄭玄既に之に據らず、賈公彥亦司農説を支持してゐないのである。とはいふものの、司農が禘を禘より大なりと考へただけは、概ね想像することが出来るのであつて、さればこそ王制孔疏も、王肅説のグループの中へ、一枚鄭司農を加へたのであらう。併し何れにしても、王肅説は逸禮を根據とせるものであり、未だ鄭玄説程の確乎(比較的)とした論據はないやうである。

五、禘禘一祭二名説

以上の如く、或は禘の方が大なりとか、或は禘の方が大なりとか、兎角の議論を重ねてゐる間に、これは又意外にも禘禘は元來異なつた二祭でなくして、一祭にして二名あるに過ぎないといふ説が生じた。而して其の説の先驅をなすものは、實に賈逵劉歆あたりであるらしい。

賈逵・劉歆則云、(禘禘)一祭二名、禮無差降。(杜氏通典卷四十九所引)

けれども單にこれだけでは、何故に禘禘一祭二名なのだから分らない。禮記王制孔疏になると、此の事を稍々詳しく説明して、次の如くに云つてゐる。

爾雅云、禘大祭也。謂比三四時爲一大也。故孫炎等注爾雅云、皆以禘爲五年一大祭。若左氏說及杜元凱、皆以禘爲三年一大祭、在太祖之廟。傳無禘文。然則禘即禘也。取其序昭穆、謂之禘。取其合集群祖、謂之禘。(禮記王制孔疏)即ち(一)春秋經文や左傳等に禘の文字の見えぬこと、(二)爾雅孫炎注や左氏說乃至杜預注に據れば、五年の一大祭も三年の一大祭も、共に禘祭であること等の理由により、禘は一祭二名なりとし、その祭に昭穆を審諦するところから之を禘と謂ひ、又その祭に群祖を合集するところから之を禘と謂つたに過ぎぬとするものである。事實春秋や左傳の例に於て、未だ禘の文を見ないところから推して、此の一祭二名説は相當根據があるものと思はれる。鄭玄が信ずる禮織の、五年に一禘一禘する説は未だ俄かに信を措き難く、又周禮春官大宗伯の「肆・獻・裸」と「饋食」とを禘・禘に當嵌めることに、何等依るべき根據がないからである。されば清の金鶚は、其の著求古錄禮說の中に於て、次の如く論じて賈・劉の一祭二名説に賛意を表してゐる。

諸經未有禘禘對言者。周禮司尊彝、四時之間祀、鄭司農以追享爲禘、朝享爲禘。大宗伯、以肆・獻・裸・享先王、以饋食・享先王。鄭注以肆・獻・裸爲禘、以饋食爲禘。此皆注家妄說、經無明文也。禘禘不對言。其非二祭明矣。諸家以禘禘爲二大祭者、妄也。劉・賈謂一祭二名。其說視諸家爲優。(求古錄禮說禘祭考)清の康熙字典亦一祭二名説を採り、

通考禮經、禘禘實一事、而禘即時祭中之一也。(禘を時祭中の一つに限つてしまふことには異論あるも)夫禘从示从合。是凡合祭皆爲禘。禘从示从帝。蓋帝祭之稱。其制始帝舜、夏・商・周因之。其義取審諦昭穆。上追祖所自由、(この事にも多少の異議あり)下及毀廟・未毀廟之主。……而要莫大於禘。故春秋獨書大事。公羊亦

以「禘之禘」爲「特大」、而著「之曰「大禘」也。先儒以「春秋・公羊、於此俱不言禘、遂謂別有「禘祭」。獨杜預、以「左傳無禘祭之文、因以禘釋「大事。孔穎達疏曰、禘即禘也。取其序昭穆、謂之禘」。取其合群祖、謂之禘。誠不易之解矣。と説明してゐる。萬斯大亦「學禮質疑」の中に於て、禘禘一事を論じて詳細を極めてゐるけれども、煩を避けて今之を省略する。

凡そ此等の説によれば、合祭は總べて之を「禘」と稱し得るのであつて、「禘」といふ名の特定の祭は無い。「禘」は合祭するのであるから、従つて之を「禘」と稱することも出来るのだといふことになり、更に進んでは、「禘」は祭の名にあらず、單に合祭する意味に過ぎないといふ議論にまで發展する。我が竹添井井博士が

禘、本天子祭「天之大祭。於是、凡祭之大事、因謂之禘。於是、諸侯之大祭、因亦名禘矣。即喪終之祭、亦名「吉禘」矣。說「禮者、以「禘禘」爲「一祭、非也。……曾子問、禘「祭於祖、則祝迎「四廟之主」。又曰、當「七廟五廟、無「虛主。虛主者、惟禘祭於祖、爲「無主耳。據此、知「禘乃合也。後人加「示於合旁耳。非祭名也。〔閔公二年〕
と論じたのは、全くその意味である。

斯くして一祭二名説は、一見甚だ有力な如くである。けれども果して禘と禘とは、上掲論者の主張する如く、全く一祭二名に過ぎなかつたであらうか、どうか。今少しく他の文献を穿鑿して見る必要があらうと思はれる。

六、禘禘有別説

春秋や左傳に、「禘」の文の見えないことは、上述した通りである。だからと云つて、「禘」は獨立した祭名でないと見ることは、果して當を得たものであらうか。成る程春秋や左傳等には、未だ「禘」の文が見えないかも知れないが、禮記の曾子問や王制や大傳等には、立派に「禘」の文が著はされてゐるのである。金鶚は「諸經未「有「禘禘對言者。」と云つてゐるけれども、王制の中には立派に禘禘對言してゐるのを見る。

禘「祭於祖、則祝迎「四廟之主。主出廟入廟、必蹕。〔禮記曾子問〕

當_二七廟五廟、無_レ虛主。虛_レ主者、惟_レ禘_二祭於祖、爲_レ無_レ主耳。_{（上同）}

天子_レ禘祫、禘祫、禘嘗、禘烝。諸侯_レ禘祫則不_レ禘、禘則不_レ嘗、嘗則不_レ烝、烝則不_レ禘。諸侯_レ禘祫、禘一_レ禘一_レ禘、嘗禘、

禘祫。_{（禮記王制）}

禮不_レ王不_レ禘。王者_レ禘其祖之所_二自出、以_二其祖配_レ之。諸侯_レ及_二其太祖。大夫士有_二大事、省_二於其君、于禘及_二其高祖。

_{（禮記大傳）}

竹添博士は、此の曾子問の「禘」を以て、祭名と見ず、單に「合」の意味に解して居られること、前述の通りである。併し乍ら、曾子問の禘祭を、單に合祭の意に過ぎずと見て差支ないかどうか、それは少々疑問であり、要するに見る人各自の見識といふより外はなく、未だ絶対に祭名ならずと肯定さるべき特別の理由も見出せないのである。

王制に於ける禘祫も、見方によつては單に「合祭の禘」とも見られようが、又見方によつては、禘・禘相並んだ二祭の名とも見られよう。（禘嘗・禘烝も同様）而して大傳の例に至つては、前二者に比し、「禘」を祭名と見る觀方に、一段の拍車をかけるものと云ふべきである。

此の立場に立つ時、禘祫別祭説は復びこゝに擡頭して来る。かの陳祥道が其の著禮書の中に於て、「漢時以_二禘祫爲_二一祭。故其禮始案。」と云つたのも、恐らく此等の理由に本づくものであらう。又かの章如愚が其の著山堂考索の中に於て、「大宗伯、肆・猷・裸是禘祭也。饋食是禘祭也。司尊彝、追享是禘祭也。朝享是禘祭也。既有_二此別、而賈逵・劉歆、以爲_二禘祫一祭二名。……周禮既曰肆・猷・裸。又曰饋食。既曰追享、又曰朝享。差_二別其禘祫也。禘則及_二毀廟之主、禘則及_二於祖之所_二自出也。安得_二一祭而二名哉。」と論じたのも、別の方面から、禘祫別祭説を主張したものと解せられる。但山堂考索が、周禮大宗伯の「肆・猷・裸」を禘祭とし、「饋食」を禘祭としたことは、鄭玄説とは全く反對であり、且つ「禘祭」を、禮記大傳や喪服小記により、王者の大祭として解した點は、鄭説と異なり、全く新しい見解の上に立つと謂はねばならない。（楊俊に此の説あり、鄭説を駁すること詳細を極むるも、餘りに長ければ略す。）而

して此等の説を承けて、大いに之を敷衍したと思はれるものに、秦蕙田の左の一文がある。

案天子宗廟之禘祫、當以周禮大宗伯・司尊彝二職之文爲定。而司尊彝之文尤明。其言曰、春祠、夏禴、冬烝。四時之間祀、追享朝享。祠禴烝烝、四時之正祭也。追享即禘祭。取追遠之義、故名追享。朝享即祫祭。群廟之主、皆升合食於太祖。有朝之義、故名朝享。以其間於四時正祭之中、故名四時之間祀。大宗伯職曰、以肆獻裸享先王、以饋食享先王。……肆獻裸以禘祭言、饋食以祫祭言。蓋追始祖所自出、尤以裸獻爲重。祫則陳毀廟之主而合食焉、尤以饋食爲重也。

禘祭之禮、當以大傳之文爲定。曰、禮不王不禘。王者禘其祖之所自出、以其祖配之。趙伯循謂、禘王者之大祭。王者既立始祖之廟、又推始祖所自出之帝、祀之於始祖之廟、而以始祖配之也。朱子謂、禘止祭始祖所自出之帝及始祖二位、不及群廟之主、是也。故字從示、從帝。禘者天子享帝之祭也。諸侯不敢祖天子。惟王者可以追始祖所自出之帝、而祭之。所祭者帝、故曰禘。乃天子之禮也。

祫祭之禮、當以公羊傳之文爲定。曰、大事者何。大祫也。大祫、毀廟之主、陳於太祖、未毀廟之主、皆升合食於太祖。蓋毀廟之主、藏於大廟之夾室、故出而陳之。未毀廟之主、皆在各廟、故祝迎之、使升於太祖而合食焉。曾子問曰、祫祭則祝迎四廟之主。諸侯五廟、一爲太祖廟、毀廟之主、皆藏焉、故祝迎四廟之主也。天子則迎六廟之主。故曰、周旅酬六尸。七廟七尸、始祖后稷、發爵不受旅、故旅酬止六尸也。祫有時祫、有大祫。時祫、未毀廟之主、合食於太祖。大祫、則合毀廟未毀廟之主、皆升合食、公羊所云、則大祫也。天子有祫有祫。諸侯無祫而有祫。

(五禮通考
卷九十七)

秦蕙田の此の説明は、一見如何にも明瞭そのものゝやうである。併し乍ら、此の祫禘の禘を、猶郊禘の禘と同様に見なし、大傳の説に基づいて、獨り王者の大祭と限つたのはどうあらうか。春秋や左傳の記載するところに據れば、魯に於て屢々禘祭を行つたことは既に前掲に明かなるところである。(尙左傳の襄公十六年の條には、「晉人曰、以寡君之未

禘祀」の句さへある）

魯は周公の勳功により、特に此の事が容されてあつたとしても、屢々未毀廟に禘してゐる事實を何と見るか。これ大傳の所謂「禮不_レ王不_レ禘。王者禘其祖之所_二自出_一、以_二其祖_一配_レ之。」以外に、何等かの形式に於て（よし王制に於ける鄭注や孔疏の説明が鑿空であるとしても）、禘祭が行はれたことを否むわけにはゆかない。これ杜佑が鄭説を是なりとして、

禘祫二禮、俱是大祭。先賢所_レ釋、義各有_レ殊。馬融・王肅皆云、禘大祫小。鄭玄注三禮、以_二祫大禘小_一。賈逵・劉歆則云、一祭二名、禮無_二差降_一。數家之說、非_レ無_二典據_一。至_二於弘通經訓、鄭義爲_レ長。嘗試論_レ之。以_二禮經及春秋所_レ書、皆祫大_二於禘_一。按春秋公羊傳云、大_二事於大廟_一。大事者、祫也。祫者、毀廟之主、陳_二於太祖_一、未毀廟之主、皆升_二合食_一於太祖。至_二於禘_一則云、禘_二於莊公、禘_二於僖公_一。既不_レ於_二太祖_一。（但し僖公八年大廟に禘し、又宣公八年大廟に禘せしと思はるゝ例あり）則小_二於祫_一也。又按禮記、祫_二於大廟_一之禮云、毀廟之主升_二合食_一、而立_二三尸_一。又按韓詩內傳云、禘取_二毀廟之主_一、皆升_二合食_一於太祖。則禘小_二於祫_一也。祫則群廟之主、悉升_二於太祖廟_一。禘者各於_二其廟_一而行_二祭禮_一。二祭俱及_二毀廟_一。禘之時、文王以上毀主、自在_二后稷廟_一而祭。文王以下毀主、自在_二三祧_一而祭。禘之以_二祫用得_レ爲_レ殷。禘則小_二於祫_一、而大_二於四時_一也。曾子問_レ主。夫子云、自_レ非_レ祫_一祭七廟五廟、無_レ虛_レ主。而不_レ言_レ禘。小_二於祫_一明矣。其祫則備_二五齊三酒_一、禘惟四齊三酒。祫則備_二用六代之樂_一、禘則四代而下、又無_二降神之樂_一。以示_二其國_一也。（通典卷四十九）と論斷した所以であらう。

七、結 語

以上説明し來つたところにより、祫禘の問題は實に千古の聚訟たることを知る。されば今日に於て、敢て之が論定を試みんとすることは、頗る困難な事柄であり、寧ろ無謀に近い業と謂はざるを得ない。併し乍ら、強ひて自分に之が妄斷を容されるならば、凡そ次の如き事柄となりはすまいか。即ち

(一) 禘は元來王者が天帝を祭つた名前である。

(二) 随つて王者が其の祖の自つて出づるところの帝を祭り、之に配するに祖を以てするものも亦禘と名づける。斯くして鄭玄の感生帝説に據らざる限り、禘は天祭より更に人祭にまで擴大されるに至つた。

(三) 既に人祭の大なる者に對して禘の名を冠する以上、敢て王者にあらずとも、其の祖を中心として合祭を行ふ如き大祭には、矢張り之を禘と名づけて差支なかつた。而して此の場合は、合祭なるが故に又禘とも稱した。

(四) 其の後、未毀廟の或主を中心として、或る年次に(例へば五年に一禘の如き)宗廟の大祭が行はれ、これ亦大祭なるが故に禘と稱することを得た。こゝに於て(三)の場合の禘は、之を(四)の場合と區別して、「禘」と特稱するやうになつた。

(五) 斯くして遂には、四時祭の中でも、春秋の如き比較的盛大な祭には、その一方に、禘の名を冠せしむるに至つたのである。(春禘秋嘗の類)。尤も此の時祭の禘名は、周制に於ては別に「祠」と變つてしまつたが。

となるのであるが、若し此の想定が容されるならば、經傳其の他に見えたる禘禘の問題は、大體に於て支障なく解明せらるゝものと思はれる。但し此の小研究は、禘を説くに専らであつた爲に、禘に觸れることが甚だ少かつた。且つ「天子には大禘有つて大禘無く、諸侯には大禘あつて大禘無し。」の説や、「禘にも亦時祭あり。」の説など、一切之に觸れることをしなかつたが、それは既に拙著「論語禘祭考」なる一文が、大學紀要の中に掲載され、其の中に稍々詳しく論じてあるので、敢て省略に従つたわけである。(昭和十四年七月二十九日稿)